

## 7 大阪の金融

企業の資金需要の低下や負債圧縮の動き等を反映して、金融機関の貸出金残高はこれまで減少傾向が続いてきたものの、景気の回復と相まって、最近はその減少幅も小幅にとどまっています。

しかし、世界的な金融危機の深刻化に伴う世界経済の減速、国内景気の急速な弱まりなどを受け、平成20年秋以降、企業を取り巻く環境は急速に厳しくなっています。今後は、先行きの不透明感から緊急的に手持ち流動性を高めようとする企業ニーズや成熟事業の再構築、新たな生き残り戦略に取り組む中小企業による資金需要増も見られますが、企業の投資意欲の減退に起因する資金需要減などにより、金融機関の貸出金残高動向については軟調に推移すると考えられます。

ここでは、大阪証券取引所における株式売買高の推移を他の証券取引所と比較してとりあげるとともに、金融機関の預金・貸出金残高の推移を示しています。また、大阪府が実施している制度融資の実績をとりあげています。